

***** 目次 *****

- P1 仲間たちの近況報告(1)
 1班 谷殿 美佐恵
 2班 小畑 孝二
- P2 仲間たちの近況報告(2)
 3班 古荘 光子
 4班 華崎 律子
- P3 仲間たちの近況報告(3)
 2班 後藤 銃吾
- P4 私の玉手箱 大庭 健
- P5 樹木ウォッチング遊上 眞一
- P6 絵画コーナー 木邨 圭子
- P7 絵画コーナー 藤原 雄平
- P8 絵画コーナー 藤原 敦子
- P9 写真コーナー 原 司
- P10 俳句・
 川柳コーナー 宮澤 富美雄
- P11 川柳コーナー 山上 恵子



イヌホウズキ

◇自然と文化だより◇

ChatGPT に関連していろいろな意見が噴出している。便利であるが、危険が伴うのではないかな？その危険性について ChatGPT に聞いてみた。要約すると【①偽情報の拡散：テキストに基づいて情報を生成するが、その情報が正確でない場合、偽情報を拡散する可能性がある。②バイアスと差別：訓練データから学習するため、訓練データに含まれるバイアスや差別的な言葉や意見を反映する可能性がある。③悪意ある利用：スパムの生成、詐欺、不正確なアドバイスの提供など。④プライバシー侵害：ユーザーが個人情報を提供する場合、それを悪用するリスクが存在する。⑤依存性と人間との交流不足：日常的に使用される場合、人との対話やコミュニケーションの受容性を低下させることが懸念される。】との回答が得られ、適切なガイドラインや規制が必要だと、纏めている。 Y. T

身近な国際交流

1 班 谷殿 美佐恵

2 年ほど前から東大阪日本語教室のボランティアをしている。日本に住み、言葉に困っている外国の人と一緒に日本語の勉強をするのである。教室には、ベトナム、中国、台湾、韓国、オーストラリア・・・様々な国籍の人が来る。1 対 1 でペアを組み、共に学ぶのだが・・・

日本語なら話せると軽い気持ちで始めたが、その学習支援は困難の連続である。例えば・・・

困難①日本語のたどたどしい人との意思疎通が難しい。身振り手振り、絵、写真（スマホ）等を使って何とかお互い繋がろうとする。言いたい事が伝わるとお互い思わずニッコリ。

困難②学習者によって目標が違う。日常会話が出来ようになりたい、日本語検定に合格したい、小学生の子どもの勉強をみてあげたい、帰化面接に合格したい、等々。学習者に応じたテキストや学習方法を先輩ボランティアにききながら探す。四苦八苦である。



しかし、異文化の人たちと繋がるのは、この上なく楽しい。この間、教室みんなでベトナム料理を食べに行った。

「この店のフォーのスープは、ほんものです。」ベトナム籍の A さんはなぜか自慢げに微笑む。「私の国ではなんでもまぜて食べます。」

韓国籍の B さんは、サラダとドレッシングをかき混ぜながら言う。

「台湾産のマンゴは安くておいしい。是非食べて下さい。」台湾から来た C さん。

おなかも心も満たされたひと時であった。

D さんは失業してただいま就活中、E さんは 11 月出産予定で日本でお母さんになる。いろんな境遇でも、皆さん元気に教室にやって来る。言葉に困りながらも他国でたくましく生活する人たち。私はいつも元気をもらっている。自分の日本語力の低さを実感しながらも、こんな素敵な人たちとこれからも交流を深めていきたい。



図書館で借りた 1 冊の本

2 班 小畑 孝二

朝ドラ「らんまん」の中で、植物画がよく見られました。夏休みに図書館で借りた本にも植物画が描かれていたので興味をもちました。題名は「ほんとの植物観察」でした。開くと見開きに 1 本の樹木または草本についてまとめられていました。



ここでは、オミナエシを例にします。

まず、右上の「植物画を見て正しいものを選びましょう」でした。クイズでしたので興味・関心が高まりました。正解は、①～④の全てです。

前文では、秋の七草・揺れる様子・白い花のオトコエシについて対比して説明されていました。

次に、小見出しが 4 つ（五裂の花冠に四本のおしべ・観察のポイント・夏の摘心がコツ・植物の話題）あり、特徴をとらえてまとめられていたので全体像が浮かび上がってくるようでした。これで、オミナエシとの距離感が短くなりました。

中でも、「植物の話題」が特に気になりました。植物の話題の内容は、生け花・語源・オトコエシとの比較・近似種の 4 つの話題でした。

このことを私が調べたとき、PC や図鑑などを使って丁寧に調べないと、まとめることができませんでした。以前にインプリカードの作成で、植物の話題を作成するのにたっぷり時間を要した経験があったからです。

私達と植物との関係性がより明確になると、実物がなくて文書だけであっても、より身近に感じられるようになってきました。これからの植物観察のとき、植物の話題にふれながら観察すると、もっともっと楽しくなるような気がしました。

これから、秋の七草を見られることと思います。そのとき、話題についてふれていただければ、嬉しく思います。

【参考文献】「ほんとの植物図鑑 1」

室井緯・清水美恵子著 地人書館

2003 年 5 月 20 日 初版第 1 号

工作同好会と私

3班 古荘 光子

シニア自然大学に入って経験できたことがいっぱいあります。その大きなことは、自分でいろいろ作るようになったことです。大工道具を身近に使い、ちょっとしたものは修理するようになりました。それは、自然と文化科の工作同好会に入り、いろいろな物を作ったことから始まりました。こんなものが材料に？と思うものもあります。講師の創意工夫がすばらしいです。それも、既成の物でなく、木の実の自然物を使うことが良くあります。自然物の材料の入手は季節があります。だから、観察中に実を集めたり、拾ったり、収穫できる時に集める生活になりました。

以前は文化祭に1年間の作品を出展しました。1年間の作品を一堂に集めると、他の研究部の作品に負けないものだったと自負しています（発表の機会が無くなり残念です）。

今まで代表の中川四郎さんに何もかもしていただいていた。しかし、今年度4月から会計、会場予約、講師手配などの仕事を分業し、会員の皆さんの協力の上で運営することとなりました。その流れで今年度から工作同好会のチーフを承ることとなりました。

工作同好会は月1回活動をしています。講師や会場予約状況から月によって日が違います（基本は第3火曜日）。講師は同好会会員のほか、外部講師も要請します。会場は森ノ宮から福島区民ホールと変わり現在は此花区民ホールです。

現在21名。和気あいあいと活動しています。



会員にはOB・OGもおられます。動くおもちゃシリーズや折り紙、水引細工など繰り返しテーマにあげて挑

戦することもあります。手先や目が不自由になってきました。講師の入念な準備と優しい指導で、みんな作品を完成しています（自文科HPの笑顔の会員の写真をご覧ください）。

皆様 一緒に作ってみませんか？

工作同好会に是非ご入会下さい！！

散歩で見つけたこと 3題

4班 華崎 律子

足は痛いけれど散歩が私の日課だ。

散歩で見かけた私なりの面白いこと3題。

① どこから生えたの？ど根性キリ

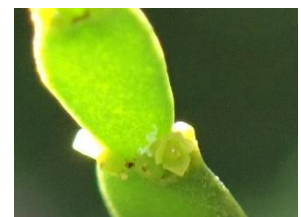
近くの山田川にかかる水道管のようなものの横からキリが生えている。こんな所に土があるわけがないからすぐに枯れる



だろうと思っていたら、立派に花が咲き実もつけて、来年の花芽までつけている。いったい根はどこにあるのだろうか。不思議。

② 花も果実もあった！

ツバキの枝に着生しているヒノキバヤドリギ。ツバキの枝や葉がない所に緑色で全くツバキに似ていない葉が繁茂しているのでよく目立つ。7月のある日、緑色の節の両側に黄色いものが見えている。今頃新しい枝を出

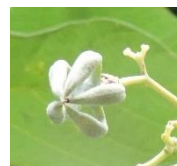


すのかなとよく見たら、小さい黄色の花だった。すでに果実になっているものもある。見ている間、盛んにアリが活動していた。アリが受粉や種子散布に関係あるのかも。雄花も雌花もあるらしいがこれからよく見てみよう。

③ 花から想像できない果実

長い間アオギリの花がどうやってあの舟形の果実になるのか疑問だった。今年はすぐ近くで見ることができた。

(1) 花が終わって受粉すると5個の袋状の蒴果が集まったものができる。(2) 袋状の蒴果が成長してクレーンのように開く。(3) 蒴果が裂開して種子が舟型の心皮につく。クレーンの形が面白く見入ってしまった。



富士登山

2 班 後藤 銃吾

今回思い切って富士登山に挑戦した。登山の概要を報告いたします。参考にいただき、私に続いて皆様も挑戦していただければ幸いです。

登山計画は、初日に吉田口五合目バス駐車場を出発して東洋館（七合目と八合目の間）で宿泊、翌日は早朝出発し登頂後東洋館に連泊、3 日目に吉田口五合目バス駐車場まで下山するという2泊3日の非常にゆったりしたものとした。山小屋を使用しない弾丸登山とは全く異なり、シニアには無理は禁物として通常のプランと比べても非常に余裕のプランである。

7 月 29 日（土）渋滞による 1 時間遅れで 12 時 40 分に五合目バス停（2304m）に到着、昼食には名物の噴火力レーをいただいた。時間をかけて高地に身体をなじませ、14 時 15 分登山を開始した。広い道の下り坂を 30 分弱歩き、登山道に進入した。黙々と登り続けて 16 時 39 分花小屋（七合目 2698m）に到着、ここからは山小屋が連なり、東洋館もあと少しのところまできた。ここからが岩場の本格的な登りになる。山小屋に到着するたび、次の山小屋こそ東洋館だろうと期待して登り続けた。17 時 56 分東洋館（2905m）に到着した。所要時間は 3 時間 41 分、標準は 3 時間で歩行スピードは 81.4%である。部屋はカプセルホテル型で、幅は 90cm、周りは板で入口には簡単なカーテンがついている。立つことはできない。着後すぐに夕食をいただき、8 時消灯で就寝。

7 月 30 日（日）は 4 時前起床。周りの騒音で起こされる。朝食を済ませ、4 時 45 分ごろの御来光を拝むために登山支度をして山小屋の外に出る。薄手のダウンと厚手のヤッケを重ね着したが暑くはない。御来光後 5 時 12 分出発。岩場が続く、いくつもの山小屋を休憩しながら通過した。登山途中の最後の山小屋御来光館（3454m）に 8 時 25 分到着した。残念だが歩行ペースは標準の 60%くらいだろうか。この辺りは空気が薄く、足腰は大丈夫だが、呼吸がもたない。高山病だ。休みながら一歩一歩足を進める。吉田口頂上（3753m）に到着したのは 10 時 46 分である。5 時間 32 分を要した。標準タイムは 3 時間で、

歩行スピードは 54.2%である。富士山頂上浅間大社奥宮に参拝し、富士山高齢登拝者名簿に記名。運転免許証で本人確認を受け、記念に扇子と素焼きの盃をいただいた。85 歳の節目に決意した富士登山だが、記帳は数え歳で、86 歳でした。これで登山の目的達成とし、足腰は大丈夫だが、高山病についての不安があるため、お鉢巡りは中止した。充分休息し 13 時 34 分下山開始した。適度な下り坂で小走りで下った。快調に 30 分以上、下ったところで気分が悪化した。迂闊だった。ペースが速すぎて酸素不足になったようである。軽い吐き気を感じ動けなくなった。しばらく休むと収まったのでまた歩き始めた。胸突江戸屋（上江戸屋 3372m）15 時 10 分着。胸が悪くゆっくりしか歩けない。須走ルートを下った。江戸屋（下江戸屋 3266m）のあたりから気分は正常になってきた。高山病は高度を下げると快癒する。東洋館には 17 時 40 分に到着した。下りはブルドーザー道、須走道を通ったため、下った岩場の難所はこの太子館から東洋館の間だけだった。

7 月 31 日（月）の朝 4 時ごろ目を覚ました。天気が良かったからか、今日の御来光は本当に素晴らしかった。神々しい感じがした。

ブル道を案内していただき 5 時 33 分出発した。花小屋には 5 時 55 分に到着した。ここからは登山道を下ることになる。花小屋からは急な岩場は無いので危険はない。7 時 25 分に広い道に出た。空荷の馬に次々と出会うのを不審に思っていたら、登山客を乗せて馬子が手綱を引いて戻ってきた。馬上から中年の女性がニコニコしながら「楽しさせていただきました。」と声をかけてきた。馬の代金は片道 6000 円のような。8 時 6 分に五合目バス停に到着した。帰りは富士山温泉に立ち寄り、上下すべて着替えてすっきりさせた。足腰はしっかりしておりまだまだ歩ける状態だが伏兵は高山病だった。なお、同行は娘である。



「植物」をやめた植物たち

3班 大庭 健

“それ”と初めて出会ったのは2017年9月の自然と文化科の観察会でした。何か分からない



まま写真だけは撮りましたが、後で今は亡き先輩の御旅屋さんから「ヒナノシヤクジョウ」では？と教えていただきました。調べてみると“それ”は「光合成をやめ、菌根菌から一方的に養分を奪う菌従属栄養植物」(他の植物から直接養分を奪うのは寄生植物)の1種で、花の後だとわかりました。

ぜひ開花を見たいと、何回か通いやっと次の年の8月初めに見ることができました。この株は茎に4つの花が付き、1つは開花、1つは終わり、2つはまだ蕾でした。わずか3mm



ほどで透き通るような白に、虫を引き寄せるためか、中心が淡い黄色のこの花にすっかり魅了されました。

さらに調べるとヒナノシヤクジョウの自生地近辺には、同じく菌従属栄養植物のホンゴウソウがセツで見つかることが多いと知り、ぜひこれも見つきたいと探しましたがなかなか見つかることができませんでした。そんな中ここで出会った方とお話をしていると、ホンゴウソウ見つけましたよと話され、写真まで見せてくれました。でも絶対にどこにあるかは、踏み荒らされるといけないからと、教えていただけませんでした。これでま

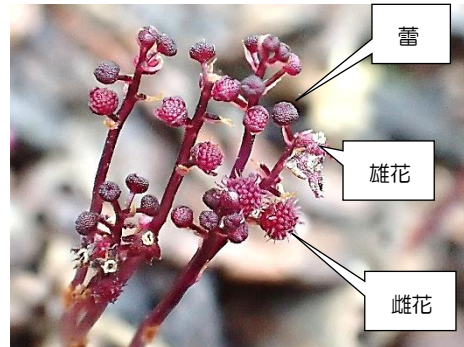
すまず見たいと思う気持ちに火が付き、何回も通い、地面に這いつくばって探し回りました。その結果次の年2019年になってやっと“それ”に出会うことができました。高さ約2cm、全体が紫色で、ヒナノシヤクジョウより目立たず、華奢で、



踏み荒らしを心配された理由がよくわかりました。ただこの状態ではどれが花なのか、果実なのかよくわかりません。そのため、翌年は少し早くから観察し、やっと芽吹きから開花、結実までの生活史をじっくり見ることができました。

た。

7月末から8月初め頃に茎の上部に雄花、下部に雌花が咲き、受粉が成功すると果実ができ、や



がて成熟し、種子を散布していく。種子散布は徐々に行うようで、次の年になってもまだ種子が残った果実が見られます。華奢なようで案外強い！



これ以降、他の数か所でもヒナノシヤクジョウとホンゴウソウをセ



ットで見つけることができ、継続して観察していますが、今年も6月中頃新たな地上部を立ち上げているのが見られました。今後も菌従属栄養植物が生育できる豊かな森が続きますように！ 以上

※タイトルは「月刊たくさんのふしぎ」9月号からの引用です。お勧め！

アオギリの生活史

3班 遊上 眞一



3月8日 茶色い毛に覆われた冬芽



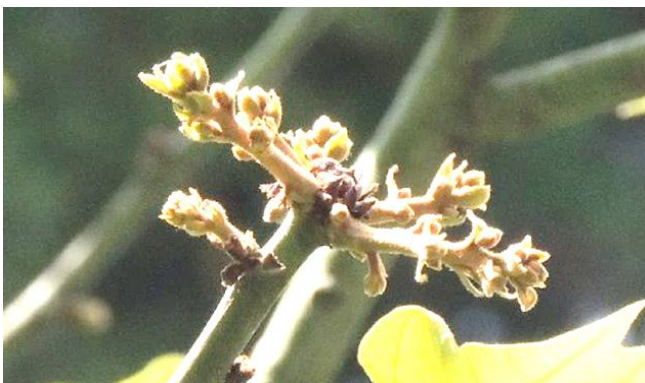
5月4日 葉がピンク色で 芽吹き



5月10日 赤褐色に変わって 展葉



5月17日 葉の色が、緑色に変わる



5月31日 つぼみ



7月21日 開花



8月9日 果実が、5分裂



8月12日 果実が裂開して舟形になる。
そして 縁に 種子がつく。

ウィーンの秋

3班 木邨 圭子



悠久

3班 藤原 雄平



金魚

1 班 藤原 敦子



ツバメのねぐら入り 豊中市柴原町赤坂下池

3班 原 司

<https://sizentobunka.jp/kaiga/index13.html> ← 拡大



<https://sizentobunka.jp/kaiga/index14.html> ← 拡大



俳句

4 班 谷坂 修二

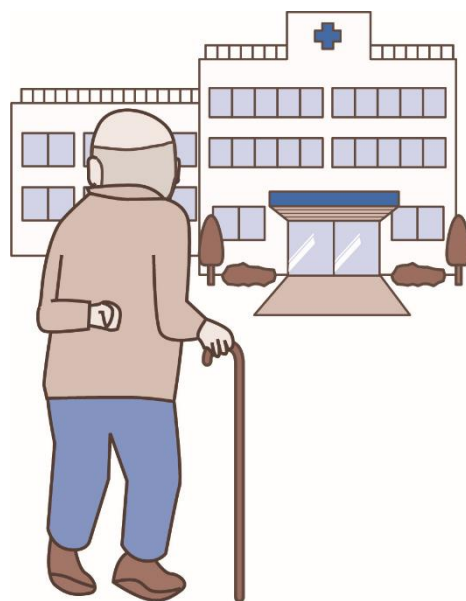
- ・ 滝飛沫鯉はねのぼり気をもらう
- ・ そうめんを呑む鯉に見立てて滝涼し
- ・ 噴射口緑山割れて水落ちる



川柳

3 班 宮澤 富美雄

- ・ 観察会 覚えたつもりが もう忘れ
- ・ 今週は 火・木・土が 通院日
- ・ 心地よく 眠りを誘う 講演会



川柳

4 班 山上 恵子

・ 笹飾りユーチューバーになりたい児

・ 断捨離を勧め夫を怒らせる

・ 片付けたつもりが皆元の鞘

・ 酷暑ですもう耐えきれないこの地球

・ 史上初言葉がどんどん増えてます

・ 記憶にないあの代議士は認知症

・ 生きている只それだけが勲章だ



58号に投稿頂きました皆様、
お陰様で無事発刊することが出
来ました。ありがとうございました。
次号も引き続き皆様のご
協力をお願いいたします。

広報委員会